

---

# 破壊の翼と変革の翼

KY大嫌い少年

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

破壊の翼と変革の翼

### 【Nコード】

N1088Y

### 【作者名】

KY大嫌い少年

### 【あらすじ】

ブリュッセル大統領府を破壊したヒイロは大破したウイングゼロと共に地上に墜落する。ELSとの対話に成功した刹那は地球を指していたが正体不明のエネルギーに飲み込まれる。Endwallとガンダム00となのはのクロスです

## 設定

キャラ設定

ヒイロ：容姿はそのまま

デバイス：『ゼロ』（Endless Waltz版）

待機時はブレスレット

展開時はウイングガンダム。ウイングゼロ、エピオンは最初は使用不可能

武装は同じ。ウイングの時ゼロとエピオンの武器使用可能

ゼロシステムはウイングゼロ、エピオンの時しか発動しない

刹那：劇場版

イノベーターの力は健在

デバイス：『ダブルオー』

待機時はイヤリング

展開時はエクシア。00ライザー、00クアンタは最初は使用不可能

武装は同じ。エクシアの時、GNソード？、GNソード？使用可能

TRANSIAMも使用可能

設定（後書き）

何か意見、要望お願いします

## 破壊者

AC196年、マリーメリア軍にブリユツセル大統領府は占拠された  
だが、一体の天使が上空から無骨の大砲をシエルターに護られた大  
統領府に向かって狙いを定めた

「確認する、シエルターシールドは張っているな？シエルターは完  
璧なんだな？」

「もちろんです！あなたの無力さを思い知りなさい！」

「了解した」

「えっ」

そして天使から黄色いビームが放たれた

それは、シールドに阻まれた

だが、天使はもう一回狙いを定め、また放った

またシールドに阻まれるが、あと一発で破壊できそうだ

だが、天使の方は二発目で左腕は限界を超え爆発した

三発目の狙いを絞った

そして三発目を放つと爆発し、天使は墜落していった

それに乗っていたヒイロは、爆発に巻き込まれていった

ELSとの対話を成功させ、刹那は宇宙を旅していた、新たな意思  
との対話に備え

そして刹那は、量子ジャンプを行おうとした

すると、目の前に正体不明のエネルギーが発生した

「なんだ、あれは？」

刹那は量子ジャンプを中断させようとしたが、

「なっ止まらない！？ちっ、ならこのまま！」

そして刹那は量子ジャンプを行なった

行き着く先が刹那の知らない世界だとも知らずに

私はジュエルシードを回収した帰りに妙なことが起きた

突然、目の前が光り、消えたらそこには緑のシャツにジーパンを履いて、腕にはブレスレットをしている傷だらけの少年が倒れていた

「！？だ、大丈夫ですか！？」

私は彼の顔を見ると、あまりにも美形で思わず顔を赤くした  
頭を左右に振って切り替えて、彼が生きているか確認した

「ふうよかった生きてるよ、ユーノ君」

「なのは、彼を家に連れていってあげたらいいんじゃない？」

フレットのユーノに言われたのはは、

「うん、そうだね!」

彼を家に連れていくことになった  
これがヒロとなのはの出会い

刹那はどこかの森にいた  
なぜか背が縮んでおり、若干若返っていた  
服装は私服だった

「ここはどこだ?俺は宇宙にいたはずだ」

「マスター」

「っ!誰だ!??」

「ここです、マスター」

声がある方を見ると、青い宝石がついた指輪がはめられていた

「まさか、お前は…」

「はい、クアンタです」

「クアンタここはどこだ?」

「はい。ここはあなたがいた地球とは違う地球です」

「違う地球?」

「マスターの地球とは違う歴史を歩んできた世界、パラレルワールドです」

「っ!?!?」

刹那はそれを聞いて頭が痛くなった

「帰れないのか?」

「それについては…」

「そうか…。クアンタ、周辺に街はあるか?」

「はい。ここから2Kmの地点に」

「了解」

そして刹那は歩き始めた

しばらく歩くと、宝石が落ちていた

刹那が拾うと、上から杖を持ったツインテールの金髪の少女とオレンジ色の髪をした女性が現れた

「すみません。それを渡してください」

「なに?」

「お願いします」

「素直に渡しなよ」

刹那は困った

「クアンタどうすればいい?」

「マスター、セットアップと言ってください」

「了解。セットアップ」

そして刹那の体が輝きだし、そこに現れたのはエクシアだった



「これは、エクシア？」  
「はい。その他の二機は今使えません」  
「了解」

それを見た二人は驚いた

「！？魔導師」

「管理局の人間かい！」

「おとなしく渡してください」

「断る」

「じゃあ少しだけ眠ってもらいます。アルフ」

「分かったよフェイト」

そして刹那はGNソードを構えた

「私が先に斬り込むからアルフは援護を」

「OK。分かったよフェイト」

そしてフェイトは、バルディッシュを刹那に振るった  
だが、刹那は、

「甘い！」

GNソードで受け流し、そのままフェイトの首に突きつけた

「これで、終わりだ」

「は、速い」

「フェイト！」

アルフが刹那に向かってきた

刹那はかわして、アルフを蹴り飛ばした  
アルフは木にぶつかり、うずくまった

「やめて」

フェイトがアルフを見て言ってきた

刹那は、装備を解き、フェイトと向かい合った

「分かった。だが一つだけ教えてくれ。お前らはなぜこれを求める？」

フェイトは悩んだが説明することにした

「母さんのためです」

「母、か」

刹那はこの少女に強い意思を感じた

だが、この子の母親は何を考えている？

刹那は妙な胸騒ぎがしていた

「分かった。俺も協力しよう」

『えっ？』

「人数が多いほうが早く済むだろう」

「でも、」

「気にするな」

刹那はこの子の純粋な思いが自分に似ていると思った  
そしてフェイトとアルフはそれ以上深く追求しなかった  
そして刹那はフェイトたちに協力することになった



破壊者（後書き）

感想、よろしく！..

## 少年と少女

高町家

次の日、ヒイロは目覚めた

そして最初に見た物が天井だった

体には、暖かいものがかけられており、ここは誰かの家だとはすぐに理解できた

少し体には痛みがあるが、普通に動けるようだ

「あつ起きました？」

ドアが開かれ、そこから少女が入ってきた

「お前は誰だ？」

「わ、私は高町なのとはいいます」

ヒイロの言い方になのはは少し怖がった

「お前が俺を助けたのか？」

「はい。あなたが道端に倒れていたので」

「そうか。感謝する」

ヒイロはなのはお礼を言った

昔のヒイロだったらこんなことは言わなかっただろう  
なのはは焦りながら答えた

「いえ！ただ私がしたかっただけなので！」

そしてヒイロは、

「高町なのは、ここはどこだ？」

「ここは海鳴市です」

「うみ、なり、し」

なのはの言葉にヒイロは耳を疑った

ヒイロの記憶には海鳴市という市は知らない

「すまんが、この情報を知りたいんだが…」

「あ、はい。なら新聞を持ってきますね！」

そう言っただけなのは部屋を出ていった  
それを見送ったヒイロは疑問に思った

(なぜ俺はここにいて？戦いはどうなった？ゼロは？リリーナは？)

「マスター」

「誰だ？」

「あなたの腕です」

腕を見てみると、ブレスレットがあった

だが、ヒイロはこれがなんなのか知らない

「お前はなにものだ？」

「私は、以前あなたが乗っていた機体です」

「まさか、ゼロか？」

「はい。あの時私は大破し、あなたを巻き込んでしまいました」

「それはどうでもいい。なぜお前はその姿をしている？」

「私にもわかりません」

「そうか…ゼロ、ここはどこだ？」

ヒイロは今一番気になっていたことを聞いた

「ここはあなたの地球ではありません」

「どういう意味だ？」

「つまり、マスターはあの時の爆発で何らかのひょうしでここに来てしまったようです」

ヒイロの頭は理解に追いつくことができずにいた

「なら、ゼロシステムで私の中のこの世界の情報を送りますか？」

「できるのか？」

「はい」

「頼む」

「あの〜新聞を持ってきたんですけど」

なのはが新聞を取ってきた

ヒイロはそれを受け取り、新聞を見た

ヒイロはそれを見て確信した

「本当に俺は違う世界に来たようだな…」

「えっ？」

ヒイロの眩きになのはは首をかしげた

「そういえば、あなたの名前を聞いていませんでしたよね」

「…ヒイロユイ」

「ヒイロさんですか…。あっ！私そろそろ学校なので行きますね！  
下に行けば、お母さんがいるので」

「了解」

そう言っただけなのは急いで部屋を出ていった  
ヒイロはベッドから出て、下に降りた  
そこには一人の女性がいた

「あら、もう大丈夫なの？」

「ああ」

「そう。あつ何か食べる？」

「いや、今からこの町を調べる」

「そう。夕方には帰ってきてね。なのは、あなたがなくなったら、  
悲しむだろうから」

「…任務了解」

そしてヒイロは家を出た

ヒイロは近くの公園にいた

「ゼロ頼む」

「はい。ゼロシステム起動」

ヒイロの頭の中に様々な情報が流れ込んできた  
その中にこの世界についてのことがある  
そしてゼロシステムを終了させた



「魔法……」

「この世界には魔法というものがあり、あの少女も魔法を使えるみたいですね」

「ゼロ、俺も使えるのか？」

「はい。ですが、今使えるのは、ウイングガンダムだけです。ウイングゼロとエピオンはまだ使用不可能です」

「そうか……」

そしてヒイロは公園を出て、そのあたりを調べた

やはり、ここはヒイロが知る世界ではなかったが、知らないものだけということではなかった

そして夕方になった

「マスター、そろそろ戻ったほうがいいのでは？」

「了解」

そしてヒイロは家の方に向かって歩いた

そして、どこかで爆発が起きた

「なんだ？」

「マスター、あそこの神社から何かを感じます。行ってみましょう」  
「任務了解」

ヒロが目覚める前の日

刹那はフェイトたちの家にいた

なぜ少女が高級マンションに一人で住んでいるのかはわからないが

「そういえば、刹那ってどんな世界からきたの？」

「あつ私も知りたいな」

フェイトの質問に刹那は少し表情を暗くした

(マスター)

(！クアンタか。これは脳量子波か？)

(似たようなものです。心の中で話すようにすればできます)

(それでどうした？)

(マスターの世界のことは話していいと思います。あなたの過去のこと、GNDドライブのこと以外は)

(そうだな)

そして刹那は自分の世界について話した

そのところどころでフェイトたちは驚いたりしていた

「モビルスーツ、ねえ」

「なんかすごいね」

フェイトたちの世界は魔法が発展した世界だが、刹那の世界はすごく機械技術に優れた世界だった

そして夕食の時間になった

置かれたのは、主にインスタント食品だった

刹那は、時間が無いから作るのが面倒、とか思い食べた  
アルフは人間の姿でドッグフードを食べていた

「…なぜ人間のお前がそんなものを食べている？」

「あゝ私は人間じゃなくて使い魔なんだよ」

「使い魔？」

「主の魔力を使い生み出された魔力生命体だよ。私の場合主はフェイトね」

「そうか…フェイトは力がある魔導師なんだな」

「…そん、な、こと」

刹那の言葉にフェイトは少し顔を赤らめた  
アルフはしつぽを振りながらニヤついていた  
そして食べ終え、ゴミを捨てるが、ゴミ箱の中身がほとんどがイン  
スタント食品のゴミだった

「これは体に悪いですね」

「仕方ないんじゃないか？長期の任務では素早く栄養を補充出来た  
ほうがいい」

「ですが、九歳の子供がこればかりだと栄養が偏ってしまうのでは  
…」

刹那とクアンタは今後の食生活について話し合っていた  
だが、もう遅いのでまた明日ということになった  
そして刹那は訓練をするため屋上に上がった  
残ったフェイトたちは、

「しかし、刹那もよく協力してくれるね」

「うん」

「フェイトは何も思わないのかい？」

「たしかに最初見たときは怖かったけど、接してみると優しい人なんだなって思った」

「ふ〜ん」

「私たちも屋上に行ってみよう」

そしてフェイトは部屋を出ていった

アルフはしっぽを振りながら、

(フェイト、いくらなんでも年が離れすぎなんじゃ…)

アルフはフェイトと精神がリンクしているためかフェイトの感情が分かってしまった

(フェイト、がんば！)

と、心の中で応援するアルフだった

少年と少女（後書き）

グダグダですが、なにかあればお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1088y/>

---

破壊の翼と変革の翼

2011年11月3日02時15分発行